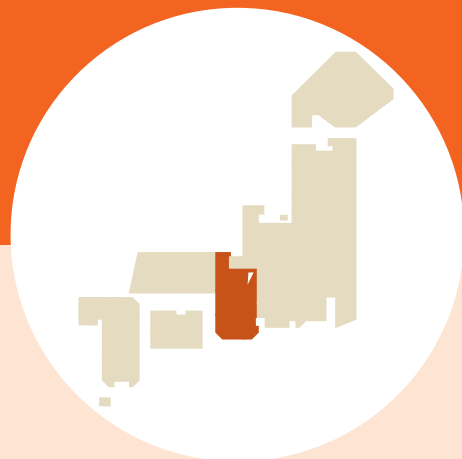


近畿



p.28 滋賀県	p.29 滋賀県	p.30 京都府	p.31 大阪府
窪田幸二さん	松山 進さん	波多野正信さん	小森稔信さん
			
テニス	スポーツチャンバラ	ターゲット・バードゴルフ	ソフトテニス
p.32 奈良県	p.33 大阪市	p.34 堺市	p.35 堺市
月岡麗子さん	角谷 豊さん	南野恭和さん	米田紀代子さん
			
グラウンド・ゴルフ	剣道	サッカー	水泳





テニス 「チーム近江 2022」(監督兼選手)

くぼ た こう じ
窪田 幸二さん

73 歳

● 参加歴：2 回目

入場行進で旗手の大役も果たした充実の 3 日間

「ねんりんピックかながわ 2022」に滋賀県からテニス（70 歳以上男子ダブルス）の監督兼選手として出場しました。2016 年開催の「ながさき大会」に続いて 2 度目の出場で、滋賀県代表選手団の栄ある旗手を務め、今までにない緊張と感激を体験でき、私にとって一生の思い出になりました。

開会式後はテニスの監督会議に出席し、1 日目の行事を無事に終えた後、夕食は横浜で楽しみにしていた中華料理をチームメイトと一緒に美味しくいただき、夕食後は翌日からの試合に向けて、チームメイトとミーティングをして 1 日目を終えました。

2 日目は、いよいよ待ちに待ったテニス競技です。横浜市の三ツ沢公園テニスコートに全国から 68 チームが集結し、17 グループに分かれての予選リーグ戦（1 グループ 4 チーム総当たり戦）を行いました。愛知県から子どもと孫が応援に駆けつけてくれたので、私はいつも以上に力が入りましたが、何とか 3 勝 0 敗で終え、チームも全勝して予選リーグ第 1 位通過で 2 日

目を終えました。私の出場する 70 歳以上男子ダブルスが初戦なので、勝って次のペアに勢いを渡していくことの重要性を改めて痛感しました。

3 日目は、第 1 位グループのトーナメントに参加しました。2 回戦で開催県の神奈川県と対戦し、初戦を落として流れをつくれず、チームも惜しくも 1 勝 2 敗で敗退しましたが、優秀賞のメダルをいただきました。神奈川県は準優勝されましたので、負けはしましたが、悔いはなし。全国には私より上手な方がたくさんおられることを改めて痛感し、今後の励みになる大会となりました。機会があればまた出場したいと闘志が湧いてきました。

試合の合間には他府県の方から、「滋賀県の〇〇さんとはテニスの試合でお目にかかったのですが、お元気にされてますか？」とお声をかけていただきました。これがまさに交流大会なのだと実感しました。

今大会は体温・体調管理の徹底、抗原検査の実施などコロナ対策を万全に期した大会となり、ご尽力されました関係者の皆様、今大会で親しくなった方に厚く御礼申し上げます。そしてチームの皆さん、本当にありがとうございました。



開会式の入場行進では滋賀県代表選手団の旗手を務めた。(先頭)



チームメイトと勝利を誓う。(右から 2 番目)



スポーツチャンバラ 「滋賀県」(監督兼選手)

まつ やま すすむ

松山 進さん

77歳

●参加歴：1回目

感謝と感動、そして優勝。生涯忘れられない大会に

「ねんりんピックかながわ 2022」大会に少数精鋭の3名が参加し、団体戦で優勝することができました。

2019年当初、日本スポーツチャンバラ協会本部の責任者から神奈川大会で競技として実施されるとの案内を受け、即座に参加しようと決めました。そもそも、ねんりんピックでのスポーツチャンバラの開催は初めてです。滋賀県庁に顔を出し、紹介してもらった滋賀県社協の担当者からネットでの入力方法などきめ細やかなアドバイスをいただき、なんとか申し込みまで辿り着けました。

コロナ禍の第8波が懸念される状況下、健康管理には特に気をつけて過ごし、申込者全員が参加することができました。もともと60歳以上の該当者は限られている中で、予定していた選手要員が1名、2名と欠けていくなど心配もしましたが、必要最少人数の3名が確保できたのです。本来ならば開会式・閉会式にも参加するべきですが、まだ就労している参加者もいたため、一緒に行動することを優先し、ともに優勝を目指し「団結・規律・士気」をモットーに連絡を密にして日々の稽古に励みました。

試合は基本動作に加え、打突競技の得物は小太刀(1m)、長剣(フリー1m)、ショート(1m以内)、ロング(2m以内：槍・棒・等)の5種目形式です。一戦一戦、強豪たちと剣を交えながら勝ち上がり、1位から3位までが1点差という接戦を制して最高の結果を残すことができました。

試合前日は時間の余裕があり、名所旧跡

を観光して鎌倉市民の懇切丁寧で心温まる対応に接し、深く感銘するとともに勉強をさせていただきました。例えば、道を尋ねれば、その場所まで同行してくださることもありました。

会場の設備も立派で、おもてなしは至れり尽くせり。親切なスタッフや医療従事者の方々から、手もみマッサージに低酸素機器の設置、飲料・記念品の提供など、満足のいく対応をしていただきました。大会スタッフ、滋賀県社協の皆様、本当にありがとうございました。

「継続は力なり」。若い世代と交流して身体を動かし、いつまでも若々しく健康で元気に過ごしたいとの思いから、ウォーキング、ジョギング、ウエイトトレーニングに、もちろんスポーツチャンバラにも精を出しています。その時々での体調と相談し、休息日を設けながらではありますが、かれこれ50年は続けてきました。この先も、体力の続く限り頑張りたいと思います。



チームの総力で優勝トロフィーを獲得。(表彰台中央左側)



ターゲット・バードゴルフ

「京都北都」(選手代表)

は た の ま さ の ぶ

波 多 野 正 信 さん

82 歳

● 参加歴：6 回目

健闘を称えあった宝物のような思い出

都ホテル京都八条において京都府選手団の結団式が挙行され、知事の激励を受けて、選手のうち 136 人は新幹線で一路静岡へ。静岡からはバスで湯河原温泉へと赴き、夜は一同で会食し、明日からの大会に向けた決意表明とともに楽しいひとときを過ごしました。

翌 12 日は早朝からバスに揺られて総合開会式会場の横浜アリーナに。全国から集まった色とりどりのユニフォームに包まれた選手たちは元気いっぱい。岐阜大会がコロナ禍のため中止となり 3 年ぶりのねんりんピック。くしくも旗手を拝命し、皇族観覧のアリーナ場内を緊張と感激で行進した思い出は私の宝物となりました。

出場競技は「ターゲット(標的)」「バード(鳥)」「ゴルフ」の 3 語をつなぎ合わせた名称で、略称 TBG といい、文部科学省指定の生涯スポーツのひとつとして、ねんりんピックの正式種目として認められています。ルールはゴルフと同じで 18 ホールを回り、パー 72 の最小得点を競います。ゴルフと異なるのは、クラブがピッチングまたは TBG 専用の 1 本であり、フィニッシュが地面から 50cm の高さに設定されたパラソルを逆さにしたようなホールに入れることです。

さて、今回の大会は綾瀬市での開催。風は強いとの前触れどおり、自衛隊厚木基地に隣接する綾瀬スポーツ公園に着くと 8～10 m の風がありました。基地から離着陸する飛行機は、高さ 10 m 前後の操縦士の顔が見えるほどの近さで会場の上空を駆け抜けます。そのたびに、なおの強風と騒音にさらされました。その影響もあり、残念な

がら 1 日目は競技が遅れてノーゲームに。2 日目のみの成績で順位が決まることになりました。

私は今回で 6 回目の挑戦でした。2007 年「いばらき大会」では当時の舩添要一厚生労働大臣から直接、5 位のメダルを首に掛けていただき感激したことを思い出します。2016 年「ながさき大会」では優勝をいただき、今回も頂点を目指して頑張りましたが、残念ながらゴールドシニアの部で 5 位となりました。

今回、京都府からは選手 4 名が参加。ゴールドシニアの部優勝(杉山)、同 5 位(波多野)、女子の部 3 位(小谷)と、これまでにない健闘を残しました。そして翌日、鎌倉を観光して帰路につきました。

最後になりましたが、大会運営にかかわられた神奈川県の皆様、京都府選手団を支援いただいた京都 SKY センターの皆様には大変お世話になり御礼申し上げます。



最高の思い出をともにした京都北都チームのメンバーと。(前列右)



ソフトテニス 「好きやねん大阪府パートスリー」(選手)

こ もり とし のぶ
小森 稔 信 さん

69 歳

● 参加歴：4 回目

「競技を楽しむ、勝敗は二の次」をモットーに善戦！

コロナ禍においての3年ぶりのねりんピックが開催できてよかった！

都会の横浜アリーナ会場での総合開会式、どんな感じかなと思いつつ向かいました。私が大阪府のユニフォームを着て参加するのは、今回で4回目になります。大阪府選手団の名誉ある旗手を務め、緊張しながらも元気に行進したことがいい思い出になりました。

旗手の大役も無事終えた後のアトラクションは、時代の流れをテーマにされた創作に「すばらしい！ 懐かしい！」の連呼が起こる記憶に残るものでした。コロナ対策、参加者への助成、配慮なども行き届いていたことに感謝いたします。まさに国を挙げての一大行事であると感じました。

その後、ソフトテニス競技会場となる小田原市へバスで移動、車中からときどき見える富士山に女性たちは大はしゃぎでした。小田原アリーナで開始式および歓迎セレモニーがありました。ここでも、地元の方々の歌に合わせた指体操や、高校生による和太鼓演奏を満喫。迫力満点の大太鼓、小太鼓で私たちの戦う気持ちを盛り上げてくれました。

2日目、宿泊先の箱根から会場へバスで移動。好天に恵まれ、ソフトテニス競技が始まりました。予選リーグ1回戦は、強豪東京Aチームとの対戦。5分間の練習後、混合ダブルス、男子ダブルス、女子ダブルスの3つのペアで団体戦を行い、先に2点取ったチームが勝ちとなります。試合開始前の郷土土産の交換後、戦闘開始。結果は、健闘むなしく0対3で敗れ、第2戦の北海道との対戦も0対3で敗退。第3戦は

福井県との戦いで、女子チームが神がかりな強さを見せて2対1と勝利し、予選リーグ3位となりました。

3日目、3位トーナメント1回戦、1対2で負けました。どのチームも若い選手が多く、レベルが高いことに驚きました。我々「好きやねん大阪府パートスリーチーム」のモットーは「競技を楽しむ、勝敗は二の次」、自分たちのできることを一生懸命に頑張ることでした。

ねりんピックに出場できた喜びを胸に競技会場を後にして、レンタカーで大涌谷、仙石原のすすき草原を見て、富士五湖一周の旅に出ました。車中では早くも観光モードに切り替わり、楽しい会話が飛び交いました。大変有意義で、このメンバーとより強い絆で結ばれたと思っています。

最後に、今回のねりんピックにご協力いただいた関係者の方々に感謝いたします。ありがとうございました。



ともに競技を楽しみ、観光を満喫して絆を深めた。(一番前)



グラウンド・ゴルフ 「奈良県」(選手)

つき おか れい こ

月岡 麗子 さん

76 歳

● 参加歴：1 回目

大好きなグラウンド・ゴルフで豊かな人生を

「ねんりんピックかながわ 2022」に奈良県代表として初めて参加いたしました。主人が「ながさき大会」に出場した折、私は家族として同行しましたが、開会式がとてもすばらしく、皆さん、胸を張って行進されていました。私も一度は出場したいと思っていたのですが、今年、奈良県の予選において、運良く2位に入り、代表になることができました。奈良県代表は男性3人、女性3人です。

京都を出発して横浜のホテルに到着し、ホテルでお弁当をいただきました。翌朝、ホテルを出発し、横浜アリーナへ歩いて行きました。開会式が始まり、テレビで見ていた室伏長官や黒岩知事など有名人の方々の挨拶やパフォーマンス、アトラクションもすばらしく、感動しました。奈良県代表の入場行進では私たちも立ち上がり、せんとかんの手旗を振りました。開会式が終わると、グラウンド・ゴルフの会場である茅ヶ崎へ電車で移動です。前を見て後ろを見て6人全員揃っているかと、私たち年寄りの珍道中の始まりです。鎌倉の大仏を見学しようと、関西弁丸出しで電車、バスに乗り、ようやく見学することができました。人々に道を尋ねながらようやくホテルに辿り着き、明日はがんばろうと皆で誓い合いました。

11月13日、会場となった柳島スポーツ公園では、関係者の皆様からジュース、菓子などおもてなしを受けました。今日は2ゲームです。私が出場すると、チームの仲間が応援してくれ、チームの仲間が出場すると私も応援しました。ホール

インワンにはならなかったけれど、自分なりにがんばりました。

11月14日は風が強く、寒くて震えました。1日目の成績発表があり、4位に入っていました。今日は1ゲームの試合です。ホールインワンにならなかったのがダメだろうと思っていましたが、優勝と聞いた時、夢のようで信じられませんでした。チームの仲間も喜んでくれました。

茅ヶ崎グラウンド・ゴルフ協会の皆様、奈良の役員の皆様、お世話になりました。皆、無事に奈良へ帰ることができました。奈良県グラウンド・ゴルフ協会の皆様、田原本町グラウンド・ゴルフ協会の皆様、仲間たち、皆ありがとうございます。これからも大好きなグラウンド・ゴルフを楽しみたいと思います。そして、その魅力を伝えるべく、近所の方々、老人クラブの皆様にもお誘いしています。一人でも仲間になり、楽しい人生を送ってほしいと願っています。



珍道中も楽しんだ奈良県代表チームの6人。(前列中央)



剣道 「大阪市」(選手)

かく たに ゆたか

角谷 豊さん

62 歳

● 参加歴：1 回目

大会初参加で見つけたこれからの目標

「ねんりんピックかながわ 2022」に初参加させていただきました。昨年の「ぎふ大会」が初参加の予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルス感染拡大により大会が中止となり、再度大阪市の選手選考会に挑み、参加の権利をいただくことができました。60 歳になってねんりんピックに参加できることに、改めて感慨深いものがありました。

大会に向けて、大阪府、大阪市の代表選手の先生方と、週末に時間のある限り合同稽古を行い、チーム一丸となって一緒に過ごした時間も貴重な体験でした。大阪市では参加者全員による結団式があり、選手宣誓も務めさせていただきました。これもまた貴重な体験でした。

そして、横浜アリーナでの開会式を彩るさまざまな地元の方々によるアトラクション。神奈川県歴史と文化を盛り込んだ壮大なパフォーマンスは、本当に圧倒されるばかり。大勢のボランティアの方々を含め、黒岩知事を筆頭に県を挙げてのおもてなしには、感謝の気持ちでいっぱいになりました。そのような場で大阪市の旗手を務めさせていただき、貴重な体験をさせていただいたことにも感謝しております。

剣道交流大会では 80 歳以上の参加選手の先生方への表彰があり、長年にわたり剣道を続けられてきたことに尊敬の念を抱くとともに、自分自身の今後のねんりんピックでの目標ができたように思いました。各代表チームの先生方は、長年にわたり剣道修行をされてこられた精鋭揃い。大阪市チームは予選リーグ 1 勝 1 敗で決勝トーナメントには上がりませんでしたが、大会に参加して貴重な体験をさせていただいたこと

に感謝しております。「勝に不思議の勝あり、負けに不思議の負けなし」と言われますが、今回の結果を真摯に受け止め、2 年後の大会に向けて頑張る決意です。

初参加で思い出に残ったのは、大学卒業後に 1 度も会えていなかった剣道部の同級生 2 名（栃木県、香川県）、先輩 4 名（愛知県、滋賀県、神戸市）に 30 年ぶりに出会えたこと。剣道を続けていると日本のどこかでつながっており、剣道を通して再会があることを身をもって体験したように思います。そして、全国の先生方と神奈川県の地で交流することができ、まさにねんりんピックとは生涯における「交剣知愛」の場であるとわかりました。

4 日間という長いようで短い期間でしたが、初めての貴重な体験が多く、剣道を通していろいろな方々と交流をもつことができ感謝しております。最後になりますが、大会の準備並びに運営に携わられた全ての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



チームで戦い、「交剣知愛」の場であることを実感。(左から3番目)



サッカー 「堺市」(監督兼選手)

みなみの きょうかず

南野 恭和さん

70歳

● 参加歴：8回目

55年ぶりのサプライズで青春がよみがえる

選考会当初は16名いた選手が、腰痛などの理由で2人の辞退がありました（途中練習会で2人追加）。全員揃っての練習会が一度もなく、また、神奈川の大会の出発間際にお母さんを亡くされた方が不参加となり、私自身も10月初めにアキレス腱損傷で全治2カ月。結果、14名とアキレス腱損傷1名の計15名で、神奈川県に向けて波乱の船出となりました。

11日は、横浜みなとみらいで夜景を楽しみました。12日の横浜アリーナでの総合開会式は、司会は榊原郁恵ちゃん、モニュメント点灯セレモニーには草笛光子さん、メインアトラクションには、トワ・エ・モワなど懐かしい方々の出演を楽しみ、午後、チームメイトは鎌倉散策に出かけました。私は、監督会議のため観光できず、残念でした。

大会1日目、第1戦目の東京都Bとの試合は、コイントスでのキックオフが堺市となりました。東京都Bは2016年の「ながさき大会」で0対4で敗戦したチーム。今回は残り1分で追加点を入れられ0対2で敗戦しましたが、素晴らしい集中力で頑張りました。ベンチにいたところキャプテンからメンバー交代の連絡があり、慌てて出場。キックオフだけさせてもらいました。ベンチにさがる時、チームメイトをはじめ東京都の皆さんの温かい拍手を受けて感激でした。

大会2日目、観戦に来て

いたチームメイトの高校時代の同窓生が、私が中学生時代に大阪中学校体育連盟サッカー部主催の郡市対抗戦に代表選手として選抜され、共に初芝高校（現初芝立命館高等学校）グラウンドで試合をした時の左近允辰治さんでした。左近允さんは、1968年の第47回全国高等学校サッカー選手権大会に初出場の初芝高校の選手として活躍し、初優勝。のちに現在のJリーグにあたる日本リーグの日本鋼管でGKとして活躍した方です。55年ぶりに再会し、とても懐かしく話をさせてもらいました。

第2戦の仙台市、第3戦目の奈良県「奈良蹴翁」とのメダル争いの試合が終わり、堺市は3位に入賞。表彰式の後、どこからともなくかけ声がかかり、3チーム合同の写真撮影が行われました。激しい優勝争い、3位、4位争いの試合を終えて、とてもいい光景でした。いろいろなサプライズとともに青春を取り戻させてくれる素晴らしいこの大会がいつまでも続くことを願っています。



波乱の幕開けだったが、力を尽くして見事3位入賞。(後列左から4番目)



水 泳 50 m平泳ぎ 25 m平泳ぎ 「堺市」(選手)

よね だ き よ こ

米田 紀代子 さん

82 歳

● 参加歴：5 回目

手術を乗り越え、会心の泳ぎで金メダル！

神奈川県の大大会では、横浜国際プールには何度も来ていましたが、さがみはらグリーンプールは初めてだったので、とても楽しみにしていました。今回、総合開会式が横浜アリーナとのことで、神奈川県のねんりんピックへの力の入れ方というのは、やはり違うなと感じました。初めての横浜アリーナだったので、場内へ入るのに、とてもドキドキワクワクしたのを覚えています。いざ始まるとスムーズな進行、音響、照明、演出に呆気に取られる思いでした。

競技別会場への移動は大変でした。会場が広くて迷子になりそうになりましたが、選手団バスまで先導をしてくださったボランティアの方が、バスが発車するまで見届けてくださったので、とても感謝をしています。

水泳の会場はとても立派な公園内のプールでした。入口で靴の裏まで消毒し、トイレで手洗いやうがいなど、コロナウイルス対策の厳重さに驚いたことと、こうしてまで開催してくださったことに感謝の気持ちがわきあがりました。会場で対応してくださった大勢のボランティアの方にも感謝の気持ちでいっぱいです。参加できてよかった！

私は、肩関節の骨折で人工骨の置換手術をしたので、平泳ぎ以外は禁止されている選手です。1年前に平泳ぎしか参加できないとねんりんピックに申し込みをしたところ、今回この大会に参加できました。手術後2年目の泳ぎでした。結果は、50 m平泳ぎで58秒43で銅メダル、25 mは25秒56で金メダルをいただきました。

私のリハビリは水に入ると怖いもの知らず、自由に動けるのです。水泳による術後の回復に

は病院の先生も驚いていました。子どもの頃から川で泳ぎ、小学校で本格的に泳ぎを覚え、中高は水泳部、会社生活でもストレス解消のためにプールで泳いでいました。退職してからプールの会員になり、マスターの水泳大会に参加。ねんりんピックがあることを知って初めて参加したのは70歳の頃でした。

ねんりんピックに参加して、マスターの大会で知り合った人たちともお会いして交流を深めました。生涯水泳！自分の足で歩けること、健康第一に健康寿命を目指して、泳ぎ続けられたらと思う82歳です。学生時代からバタフライの選手でした。今は泳げませんが、自分に与えられた運命の中で、年を重ねる覚悟です。ねんりんピックは都道府県で違いがあるようですが、2年に1度、5年に2度参加できると聞きました。一人でも多く楽しい出会いがありますように！多くの人が参加されることを願います。



相模原市観光親善大使の2人と記念ショット。